

第4次 茅野市障害者保健福祉計画 ◇ダイジェスト版◇

「障害者保健福祉計画」は「福祉 21 ビーナスプラン」の障害福祉分野計画です

福祉21ビーナスプラン「4つのねがい」

- ◇ 一人ひとりが主役となり、「共に生きる」ことができるまち
- ◇ 生涯にわたって健やかに、安心して暮らせるまち
- ◇ ふれあい、学びあい、支えあいのあふれるまち
- ◇ すべての人にとって豊かで快適に生活することができるまち

「4つのねがい」の実現に向けた取り組み

自己実現と社会参加への支援

- ◇ 偏見や誤解の解消と生涯にわたって安心して生活できる地域づくり
- ◇ 障害のある人もない人も お互いに認め合い理解しあえる地域づくり
- ◇ 自分らしさを大切に 自己実現と社会参加を支える地域づくり

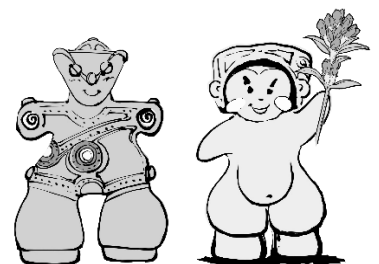
地域を基盤とした自立生活の支援

- ◇ 身近な地域で豊かな自立生活を営むための総合的支援体制の確立
- ◇ 丁寧なケアマネジメントにより 多様なニーズに対応する体制整備の充実
- ◇ ひとり一人の個性が尊重され いきいきと暮らせる「福祉でまちづくり」の推進

◎「障害者保健福祉計画」は、多様なニーズに対応するとともに、支援者が連携して課題の軽減・解決を目指し、『障害のある人がその人らしく自立し、安心して住み続けることができる地域づくり』を目指すものです。

～ 様々な課題 ～

生活支援	移動支援・生活環境
防災・減災	雇用・就業
保育・療育・教育	社会参加
人権・権利擁護	啓発・広報
情報・コミュニケーション	保健・医療 … など

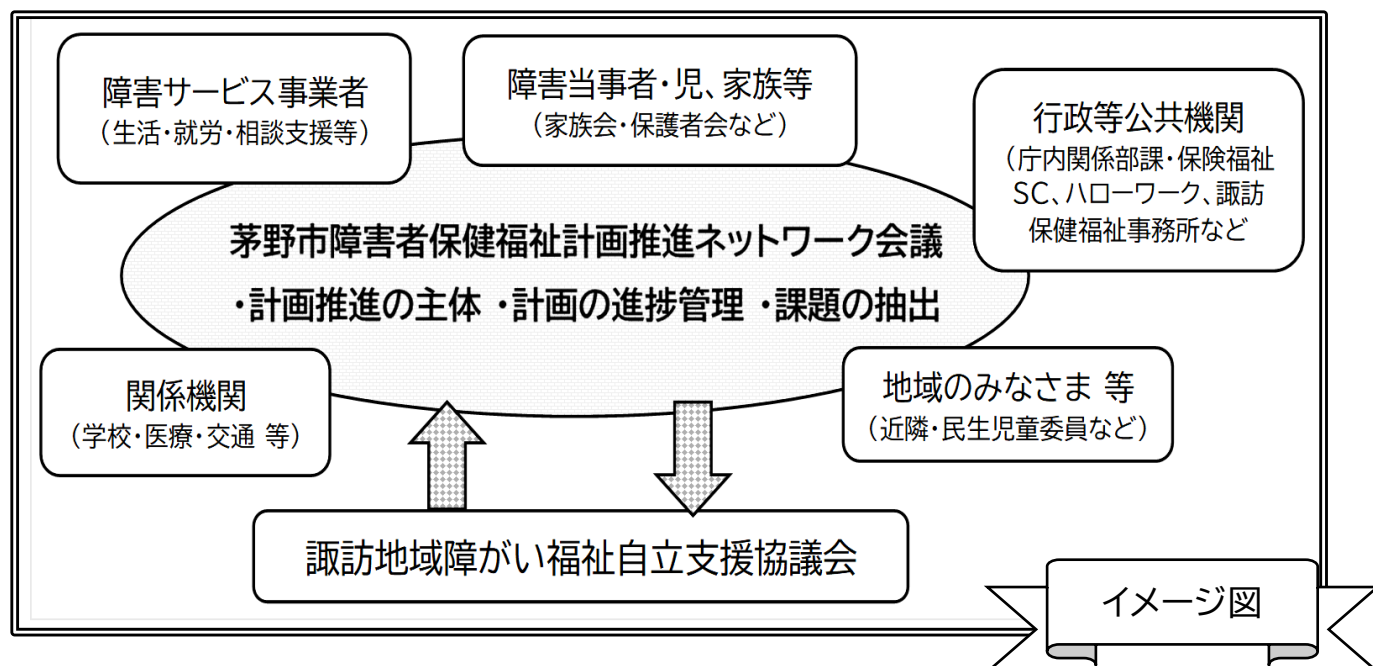


◎アンケート調査などを基に、行政と市民からなる『茅野市 障害者保健福祉計画策定委員会』で、検討・策定されています。

第4次 障害者保健福祉計画を具体的に進め、進捗管理を行う

『茅野市障害者保健福祉計画推進ネットワーク会議』が動き始めました！

※ 以下、『ネットワーク会議』



「第4次障害者保健福祉計画」への具体的な取り組み

市内関係機関との『相談のネットワーク』の整理と連携

◇ 相談者にわかりやすい相談窓口の整理と、相談しやすい支援のあり方 …①

サービスの質的な継続と変化に応じたしくみづくり

◇ 移動・外出・余暇の支援

◇ 「送迎」という移動保障

◇ 「余暇」の過ごし方 …②

情報・18歳から20歳の「はざま」の支援

◇ 18歳から20歳の“情報のはざま”の支援 …③

◇ 情報・コミュニケーションのバリアフリー化 …④

権利擁護・合理的配慮

◇ 啓発、防災、福祉教育、身近な地域での関り …⑤

①～⑤についての
説明は内面に記載♪



- 「第4次障害者保健福祉計画」の具体的な取組みを進めていくと共に、何が進んだのか、力を入れるべき課題は何か…といったことを、第5次の計画に反映させるために、『ネットワーク会議』の設置は、計画に盛り込まれています。

『ネットワーク会議』では、太字で示した課題の軽減・解決に向けて、「何をするか」を検討し具体的な動きにつなげたいと考えています。現状と方向性を確認して、“計画の目的”と“具体的に取り組んでいく内容”を中心に、このダイジェスト版をまとめました。

当事者やそのご家族、支援の関係者、市民のみなさん…多くの方からご意見をいただいて一緒に考え、動き出すことがとても大切です。ぜひ『声』をお寄せください。

ネットワーク会議で検討すること・進めていきたいこと

① 相談者にわかりやすい相談窓口の整理と、相談しやすい支援のあり方について

～ アンケートより ～

- ・相談窓口は増えたけど、「たらい回しにされた」と感じたことがある。
- ・『受け止め方、つなぎ方、支援のあり方』次第で、不信感につながる事がある。

～ 課題の解決に向けて ～

- ・各種窓口をわかりやすく説明・周知
- ・相談者が安心できる対応と、支援のあり方を検討
- ・支援者間のネットワークづくり推進



② 余暇の過ごし方について

～ アンケートより ～

- ・障害者スポーツに参加したい。体育施設（プールなど）に行く支援が欲しい
- ・公民館活動に参加したい
- ・障害があっても立ち寄れる場所・居場所が欲しい。
- ・週末、家族以外の人たちと多様な経験をしたい(してほしい)。

～ 課題の解決に向けて ～

- ・障害者スポーツ大会等の、情報発信と参加しやすくする方法を検討
- ・商工課や観光課から情報を得ながら『出かける先』と出かける支援を検討
- ・スポーツする機会と場の創設と、指導者を確保する
- ・余暇の移動手段としての“のらざあ”利用について、福祉21 茅野外出支援ワーキンググループと検討。



③ 18 歳から 20 歳の“情報のはざま”の支援について

～ アンケートより ～

- ・特別支援学校等を卒業後すると、情報提供だけではなく、何もフォローがなく不安。
- ・18 歳を過ぎると、本人宛てに書類等が届き混乱する。
- ・地域校在学中に発達障害等の疑いがあっても適切な相談や支援に繋がらない(なかった)。
- ・ひきこもりへの支援が欲しい。

～ 課題の解決に向けて ～

- ・卒業後から 20 歳など、はざまになる期間の情報提供・支援を検討
- ・早期に適切な相談や支援につなげるための、窓口の周知
- ・ひきこもりの方への、関係機関等との連携した支援を検討



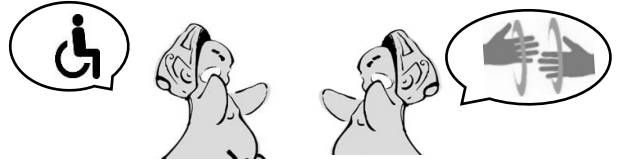
④ 情報・コミュニケーションのバリアフリー化について

～ アンケートより ～

- ・視聴覚を始め、障害のある方は情報入手やコミュニケーションに困難がある。
- ・卒業すると、年金申請などの手続き／仕事の事など情報が欲しい時期に、情報が入らない。
- ・手話言語や要約筆記、パソコンの音声読上げ機能など、周知・普及が進んでいない。
- ・65 歳から介護保険優先だが、事前情報がなく移行や、介護保険のケアマネジャーと連携ができなくて困る。

～ 課題の解決に向けて ～

- ・支援やサービスを、障害のある方や支援者だけでなく、市民にも発信・周知する
- ・年代別の『困りごと、悩み』に対して対応している相談窓口やサービスを“ガイドブック”にまとめて配布・周知して、早期相談・対応につなげる



⑤ 啓発、防災、福祉教育、身近な地域での関りについて

～ アンケートより(啓発・福祉教育)～

- ・より身近な地域で、啓発活動や福祉教育をして欲しい。
- ・近隣とのトラブルを含め、地域の方の理解や日常的な関わりが必要。
- ・災害時の支援も含め、近隣との関係をよくしておきたい。
- ・以前に比べ、茅野市の福祉や福祉教育が停滞しているのでは？

～ 課題の解決に向けて～

- ・幼少期から障害のある方と接する機会や“福祉”を学ぶ機会を作る
- ・教育委員会や学校と連携した福祉教育を検討
- ・地域との関係作りへの働きかけと支援方法を検討
- ・市の福祉や福祉教育推進に向けたアイデアの検討と提言

～ アンケートより(啓発・防災)～

- ・災害時の情報収集、避難方法、避難所での生活、復旧後の生活など、不安要素が多い。
- ・地域等への情報提供はどの程度されていてどんな支援が受けられる？
- ・避難行動要支援者名簿ってなに？どんな時使われるもの？（アンケートで精神障害の方から 前向きな回答を得られていない）
- ・個別避難計画ってどんなもの？

～ 課題の解決に向けて ～

- ・福祉避難所の設置訓練等を通じた情報発信のあり方を検討
- ・“地域に知ってもらおう”ことの大切さの発信と、避難行動要支援者名簿についての周知
- ・日常場面での個人情報保護の徹底
- ・福祉 21 茅野福祉避難所ワーキンググループや防災課と連携した対応
- ・個別避難計画の担当部署と連携し計画の周知と作成を推進する

